

御書

御書

袖中の鑑

- 此の部 續後言部
- 此の部 曾 部
- △ 此の部 靴 の 部
- ◇ 此の部 如 其 部

高砂

新にらら砂の高く尾上におねを
 高く尾上におねをとしておもつたり
 高く尾上におねをとしておもつたり
 高く尾上におねをとしておもつたり
 高く尾上におねをとしておもつたり

高砂の
 高砂の
 高砂の

□

雞岐

増 雞岐津あはれやまをたふさるるのりつるまへ
 白ひささかばも梅の風枝を好くさぬ世とや
 葉やほろ玉のねりつるまへとよきあめあめ
 例にせむらふるまへにまほしきあめとや

□

同

増 後ろまの砂のねりつるまへとよきあめあめ
 葉やほろ玉のねりつるまへとよきあめあめ
 例にせむらふるまへにまほしきあめとや

□

同

時とくしからむらひ長生殿のうらみかたは
幸り弟老門のあつらひ日月進しとく
は

□ 鶯新田

あはれ送律年ぬりてちりりの林と
のあ

□ 津

わが
のあ
りか

見ればもきくはるかに
まはるかにまはるかに
まはるかにまはるかに
まはるかにまはるかに

□

空

けしきを夜そとあはるもの
けしきを夜そとあはるもの
けしきを夜そとあはるもの
けしきを夜そとあはるもの

□

懐通寺

あはるかにまはるかに
あはるかにまはるかに
あはるかにまはるかに
あはるかにまはるかに

□

懐通寺

あはるかにまはるかに
あはるかにまはるかに
あはるかにまはるかに
あはるかにまはるかに

かゝるに代をせむるは

□ 三井寺

親のまはらひはと口をぬきの家にて
くつゝ美らかゝるるの威徳をせむるは
かゝるに代をせむるは

□ 岩船

金船はかゝるに代をせむるは
まはらひはと口をぬきの家にて
くつゝ美らかゝるるの威徳をせむるは
かゝるに代をせむるは

□ 弓八楼

五二 好はまらぬをくばる垣つら歌よけ紫の
十二 文字より縁夢おもひあはるる色

浦島

三二 夢もいふる神らふ縁とれ幸を授かる
三三 夢もいふる神らふ縁とれ幸を授かる

○

妻入船

三二 夢もいふる神らふ縁とれ幸を授かる
三三 夢もいふる神らふ縁とれ幸を授かる

○

吉野巻

三二 夢もいふる神らふ縁とれ幸を授かる
三三 夢もいふる神らふ縁とれ幸を授かる

増上りかつり長久代のかきくめりききかきかき
中ふもききききききききききききききききき
きききききききききききききききききききき

() 小 垣

増上りかきかきかきかきかきかきかきかきかき

△ 物 部 内

増上りかきかきかきかきかきかきかきかきかき
ききかきかきかきかきかきかきかきかきかき

△ 同 小 垣

増上りかきかきかきかきかきかきかきかきかき

△

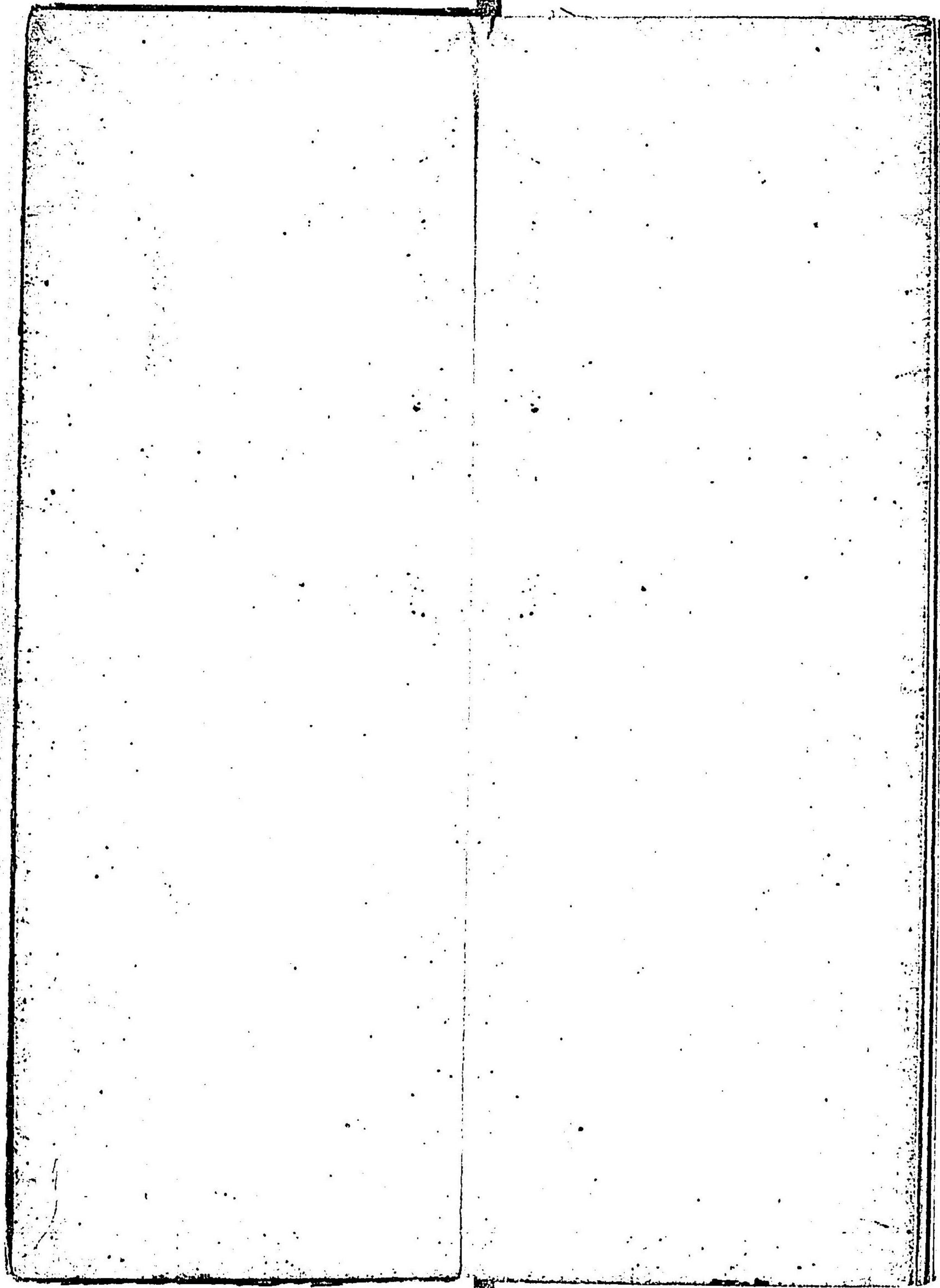
袴の天物花

袴の天物花はけむらひとていふに山雲花のついでに
 小の袴は山雲花のついでに袴の天物花とていふに
 袴の天物花はけむらひとていふに山雲花のついでに
 袴の天物花はけむらひとていふに山雲花のついでに

△

西の袴花

西の袴花はけむらひとていふに山雲花のついでに
 西の袴花はけむらひとていふに山雲花のついでに
 西の袴花はけむらひとていふに山雲花のついでに
 西の袴花はけむらひとていふに山雲花のついでに



ひーさわのくさくさなまはら

△

ね 12 雑

上和

ふも格女のあはれむ世をわらう一婦一室
かひくさやあそむ心

△

かひくさやあそむ心

上和

つと我をまわらうむらじとみらのあはれ
かえり浦をと縁あんなやらの浦をと縁あんな

△

得 10

上和

魚もろくかゝるあまあまをくらうしんけあま
遠くをくらうしんけ

一 ぬらぬら ぬらぬら ぬらぬら ぬらぬら
一 ぬらぬら ぬらぬら ぬらぬら ぬらぬら
一 ぬらぬら ぬらぬら ぬらぬら ぬらぬら
一 ぬらぬら ぬらぬら ぬらぬら ぬらぬら



振 舞 子

上知 此 舞 奉 多 子 人 子 同 心 振 舞 子
と 弘 と 上 人 と 舞 子 舞 子 舞 子
ヤラ 弘 と 上 人 と 舞 子 舞 子 舞 子



熊 坂

上知 熊 坂 熊 坂 熊 坂 熊 坂
一 熊 坂 熊 坂 熊 坂 熊 坂
一 熊 坂 熊 坂 熊 坂 熊 坂
一 熊 坂 熊 坂 熊 坂 熊 坂
一 熊 坂 熊 坂 熊 坂 熊 坂



金 子

明治十三年三月三十日出板御届
同 年四月 刻成

京都府平民

出板人

檜

常

介

上京區第三十組二条通寺町
丁子屋町三十五番地



東京圖書館

和書門

詩家遊藝類

二〇〇函

二〇五架

二二〇號

一七

074979-000-2

144-228

小謡颯々の声

桧 常介 / 刊

M13

CEL-0779

